

「放課後子ども教室」(宮城県気仙沼市)

取組の概要や経緯

保護者、地域住民等で組織された「月立小学校スクールサポータースタッフこだま隊」の参画を得て、令和2年度より気仙沼市立月立小学校で実施している。被災による影響が大きい本市において、**放課後における子供たちの安心・安全な居場所を提供し**、学習支援や体験活動支援を行うことで、**学びを通じた地域コミュニティづくり、子供を真ん中に置いた地域全体での子育て体制づくり**につなげている。また、**中高生が運営に携わる機会を創出**することで、**地域の人材育成**につなげている。



内容

- ・放課後における児童への学習活動支援（宿題や自主学習の補助）、交流活動支援（折り紙、工作活動等）スポーツ活動支援（ドッチボール等）を週2回の頻度で実施した。
- ・講師を招いて科学教室（児童館と連携）やバルーンアート講座、新春お茶会、ジュニア・リーダーによる人形劇を開催した。
- ・公民館を会場に企画事業を開催した。市内お買い物体験や、バスを利用した帰宅体験等、子供たち自身で考えながら活動した。
- ・中学校の学校再編を見据え、中学校区である内湾の防災まち歩きを行った。内湾からの避難経路の確認と、避難場所である市民会館の防災対策、備蓄庫の見学を行った。防災マップを頼りに、話し合いを行い、実際に避難経路を歩くことで、自助や共助、公助について考えることができた。



ポイント

- ・児童、保護者、地域住民（中高生を含む）の参加型による持続可能な取組の推進
- ・児童・保護者と運営スタッフとの良好な関係づくり・子供の居場所づくりの推進
- ・地域の文化施設を有効利用した**震災の教訓を風化させないための防災学習の推進**
- ・運営スタッフ補助として、**地域の中高生の運営参加の機会創出と人材育成**

成果

- ・運営スタッフの見守りの中、学習活動やスポーツ活動など、参加児童が自由に過ごせる時間を多く設定しており、参加児童の安心・安全な居場所づくりにつながっている。
- ・震災に関する防災学習は、市役所職員の案内による防災まち歩きや、防災マップを用いた避難訓練、避難場所の備蓄庫見学等を行い、災害の際の判断や行動の大切さについて考えを深めることができた。
- ・中高生を含む地域住民の参画を得て、学習・体験活動支援を行うことで、地域コミュニティの充実と活性化につながっている。

実施回数	56回
延べ利用人数	665人
年間ボランティア数	238人
地域の子供たちに震災に関わる学習は必要だと考えるスタッフ・保護者の割合	100%
子ども教室の実施で子供と地域のつながりができていると考えるスタッフ・保護者の割合	100%

今後の方向性

- ・中高生を含んだ地域住民の参画を得ながら、子供たちの放課後の安心・安全な居場所を確保する。
- ・学習・体験活動支援の更なる充実を図ることで、子供たちの豊かな人間性を育み、地域コミュニティの活性化を目指す。
- ・参加児童が学習活動、スポーツ活動、交流活動、防災学習等を安心・安全に行える環境を整備するため、より多くの学習支援者の確保・育成に努める。
- ・震災を風化させないために、教訓を生かした教育・体験活動ができる体制を構築し、実践力を伴った人材を育成する必要がある。（児童並びに中・高校生の育成）

「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」(宮城県多賀城市)

取組の概要や経緯

【放課後子ども教室】

平成20年度より事業を開始し、震災の影響で平成23年度に一時休止したが、平成23年7月より事業を再開した。放課後等に子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域住民の方々の参画を得て、子どもたちが地域の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的としている。

内容

- ・活動日時…授業終了後から午後4時30分まで
- ・活動内容…学習(宿題等)、防災学習、季節に応じたものづくり、外遊び等
- ・イベント…プラバンづくり・テニス体験・昔遊び体験・テニス体験等

ポイント

- ・コーディネーター中心に創意工夫し、多様な体験活動、交流活動を実施している。
- ・地域の団体(公民館、市スポーツクラブ等)、大学生の協力を得ながら防災学習を実施している。
- ・大学と連携し、学生ボランティアの参加を促している。また、中学生にもボランティアの協力を得られた。
- ・わくわく通信を年に発行し、教職員や保護者に活動の様子を周知している。

成果

実施できた合計年間活動日数は、202日間、安全・安心な居場所と地域住民等との交流の場を提供し、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進できた。

特に防災学習では、小学校6校合同で参加者をグループに分けて、5ブース(公衆電話使用体験、段ボールベッド組立て体験、土のうづくり体験、防災倉庫見学、備蓄品試食体験)を順番に回り、最後に防災脱出ゲームで楽しみながら、震災の伝承活動、防災・減災学習を実施した。

今後の方向性

- ・地域のボランティアスタッフの技術向上のための研修や情報提供を行い、児童に多様な学びや体験活動を提供し、心豊かで健やかな児童を育成する。
- ・中・高・大学生や地域住民とのネットワーク(地域学校協働本部との連携)を広げ、協力体制を整えていくことで、交流活動の充実を図り、地域の活性化につなげる。



防災学習(公衆電話等使用体験)



防災学習(土のうづくり体験)



防災学習(段ボールベッド組立て体験)



防災学習(防災倉庫見学)

	R6	R7
活動日数	208	202
児童参加数	5,577	5,231
ボランティア参加数	1,834	1,711



防災学習(防災脱出ゲーム)



市長と懇談(公民館と連携)



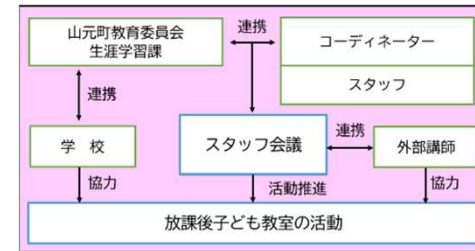
中学生との交流活動

「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「山元町放課後子ども教室推進事業」(宮城県山元町)

取組の概要や経緯

余裕教室や地域の施設を活用しながら、放課後の子供たちの活動を地域住民が見守り、**地域住民と一体となったコミュニティの確立**と**異年齢の交流**を推進する。また、子供たちが地域の大人と様々な体験をしながら、**心豊かでたくましい人間形成**を図ることにより、**地域の担い手づくり**につなげていく。



はまっこキッズ 震災遺構中浜小学校見学



みやまっこクラブ 生け花体験

内容

- **はまっこキッズ**(主な活動場所:山元町立坂元小学校)
 - ・ 毎週金曜日の14:30~16:00に、坂元小学校児童を対象として活動を進める。
- **みやまっこクラブ**(主な活動場所:山元町立山下第一小学校)
 - ・ 毎週月曜日の14:45~16:00に、山下小学校・山下第一小学校・山下第二小学校児童を対象として活動を進める。
- ◎ 主な活動内容として、スタッフ間での創意工夫を生かした活動のほか、地域住民を講師に迎え、ニュースポーツ、生け花体験、防犯カルタ、プログラミング体験、読み聞かせ、りんご狩り体験などを実施している。
また、震災遺構中浜小学校見学や、ジュニア・リーダーとともに防災について考える活動などを取り入れ、児童の防災意識を高めるとともに、中・高生の地域の担い手になろうという意識の高まりについても意図しながら活動を行う。

ポイント

- ① コーディネーター、スタッフが創意工夫をしながら**バリエーションに富んだ活動を企画**している。
- ② 地域の産業、伝統行事、サークル活動などの**地域素材にふれ、体験する活動を実施**している。
- ③ 子供から大人までの異年齢の関わりにつながる**地域コミュニティづくりの一助**となっている。
- ④ 児童との関わりを通して、**中・高生の担い手を育成**し、地域づくりにつなげている。

成果

- **放課後の児童の安全・安心な居場所づくり**となっており、様々な活動に意欲的に取り組む様子が多く見られるとともに、保護者からも好評な活動となっている。
- 児童の満足感がスタッフに伝わることで、**スタッフのやりがいと次の活動への意欲**の高まりが見られ、住民の生きがいづくり、地域づくりにつながっている。
- 活動を重ねることで、**異学年交流・世代間交流**が広がりを生み、**地域コミュニティづくり**につながっている。また、**ジュニア・リーダーが小学生に震災について伝承する活動**を設定したことで、参加児童が伝承活動の重要性に気付くとともに、自らも**地域の担い手になろうという意欲**の高まりが見られた。

今後の方向性

- スタッフの高齢化に対応するため、若い世代や大学生ボランティア等の参画を促す仕組みづくりについて探っていく。
- 学校再編後の放課後の居場所づくりや、体験活動の充実、地域コミュニティづくりについて検討を進めていく。
- ジュニア・リーダーとの関わりを取り入れることにより、多くの児童や中高生が、今後地域の担い手になろうという意欲を高める機会にしていく。
- 地域の特色を活かした体験活動の充実を図り、子供の多様なニーズに答える場として活動の更なる発展を目指す。

「令和7年度女川町放課後の子供の居場所づくり事業(放課後楽校、まなびっこ) (宮城県女川町)」

取組の概要や経緯

地域住民や中・高校生を講師やボランティアとして活用し、生涯学習につながる学びや体験を提供するとともに、児童が安全・安心な放課後及び休日の時間を過ごせる居場所づくりを推進することを通して、地域コミュニティの再構築と児童の豊かな人間性・社会性・未来の地域のリーダーとしての資質の素地を養うことを目的に本事業を実施している。

内容

教育局が連絡・企画調整を行い、特色ある講座による学び・体験の機会を提供する。放課後楽校は、女川向学館との連携により平日ほぼ毎日開設し、特別講座も月に1~2回開催した。長期休業中の講座には、中高校生もボランティアとして参加した。まなびっこは、年に8回程度、休業日に開催した。複数ある講座から児童が主体的に選択できる。地域講師を多く活用している。講座の一例)

- ◆放課後楽校: JLと遊ぼう、工作教室、書き方講座、獅子振り体験、JLと学ぶ防災教室 等
- ◆まなびっこ: バレエ体験、料理教室、海の活動、川柳・書道・珠算・将棋・凧あげ 等

ポイント

- ①一般社団法人まちとこ「女川向学館」や鳴り砂を守る会、花卉同好会、食生活改善推進員会等、地域の様々な団体と連携し、学びや体験の機会を創出。
- ②地域人材を活用することで、子どもと地域住民の交流の機会や、異学年交流の機会を創出。ジュニア・リーダーの実践(震災ミニ語り部、防災レクリエーション)の場にもなり、次世代の担い手づくりにつながっている。
- ③学校に、チラシの配布や学校施設の利用など、多くの協力を得ている。

成果

町民、町内勤務者など、女川に関わる多くの方が講師やボランティアとして参加し、子供たちも地域の方との交流を楽しんでいる。参加人数は減っているが、継続して参加する児童が多く、講師とのつながりが深まっている様子も見られる。

どの講座も満足度が高く、また、防災教室の主体である中・高校生も、語り部からの学びを発揮でき、達成感を味わうことができた

町内講師数及び参加児童数

	まなびっこ	楽校
町内講師	27(-7)	35(±0)
参加児童	437(-19)	373(-59)



今後の方向性

この事業は、内容を一新して「女川っ子学び・体験・リーダー育成包括事業」として展開し、その業務を地域団体に委託する。まなびっこは単独事業として、放課後楽校は新事業に組み入れる。

小学生から中・高校生までつながる、学びや体験、リーダーとしての研修の場を創出し、これまで以上に地域とのつながりの中で活動することを通して、地域コミュニティや地域のリーダーとしての資質を高めていく。